



富山県教育史から見てくるもの～教育博物館として～

富山県教育記念館
学芸員 布村 徹

はじめに

富山県は「教育県」といわれて久しい。何を以てこう言うのか、その根拠は多々あるが、本質は県民性に帰着すると思う。県民性の代表は、「先見性」と「進取の気性」であり、さらに「堪え忍ぶ力」と「諦めない心」があるといえる。この4つの県民性が県民の手による「人づくり」をリードして今日の教育県を形成してきたと思う。

1 富山の風土

県民性を生み出してきた土台は風土にある。東に3,000m級の山脈、南は1,500m前後の山並みが重なる。そのため、年間降水量は全国屈指で年平均相対湿度は全国1位である。河川は急流で複合扇状地を形成し、豊かな水と肥沃な土をもたらす反面、洪水等厳しい試練をもたらしてきた。豊かな実りの光景と荒涼とした光景を繰り返し映し出してきた。冬期間は積雪に閉ざされ、農業は古くから水田単作*であった。

〈*現在でも水田率は全国1位の95.7%(平成27年)〉

こうした自然現象を少しでも克服するため「先見性」と「進取の気性」が身につく、「堪え忍ぶ力」と「諦めない心」を育ててきた。そして、このような自然の厳しさの中で生き抜いていく知恵を習得するために「人づくり」は欠かせなかった。ここに教育県となっていく原動力の1つがあったといえよう。

2 産業での努力

県民性を示す代表的なこととしては電気に注目し、水力発電に着手したことがあげられる。県内は水禍に度々見舞われていることから、^{みつだこうきち}密田孝吉や初代^{かなおかまた ざ えもん}金岡又左衛門*1は、水のエネルギーを資源に転換しようと水力発電事業を起こし、県内初の水力発電所である大久保発電所を設置した。この事業は、電気の万能性を見抜いた結果であり、まさに先見性と進取の気性のあらわれといえる。さらに明治後半から大正にかけて繰り返した戦争を通して時局を読み解き、電力の将来性から、^{やまだしゅうさく}山田昌作とともに当時としては超大出力の^{あさのそういちろう}庵谷第二発電所を建設し、格安の電力供給を可能にした。地元出身の実業家^{あさのそういちろう}浅野総一郎を動かし、整備された伏木港を中心に企業進出を加速させ、着々と工業化*2が進められていった。大正後半には農業県から工業県に変わり農工一体化が進んでいく。加えて県営水力発電事業が展開され、昭和に入ると富山は水力発電により電力王国となった。豊かな電力により紡績企業が相次いで進出*3し、紡績時代を迎えた。また県営愛本発電所により電力供給力を高め、アルミ産業*4が定着・発展する等、今日の工業県富山を築き上げた。

農業でも先見性を発揮し、品種の将来性を見抜き、地道に研究を重ねて大きく貢献した。^{いしぐろいざじろう}石黒岩次郎(銀坊主を発見し、今日の多くの水稲品種に遺伝子を残す)、^{はちろうせい か}鉢端清香(水稲農林

*1；金岡又左衛門は質素な生活を常とし、蓄えた資金で百名以上の若き学生に奨学金を給与し、育ててきた。
*2；電気製鉄・北海電化・北海曹達・北海工業 *3；呉羽紡績(呉羽・井波・庄川・入善)・天満織物・日清紡績富山・日本繊維・泊紡績・日本ベルツウエスラー絹絲 *4；日満アルミから始まった。

1号を生み出し、戦後の農村再建の礎となった)、^{いなづかごんじろう}稲塚権次郎(生み出した小麦農林10号が世界の食糧難を救い、緑の革命となった)、^{すぎたにふみゆき}杉谷文之(多収量の追求から美味い質の追求の時代が必ず来ると予見し、コシヒカリの弱点を栽培技術で改善し自立させた)らが農業を支えた。

3 人を育てる

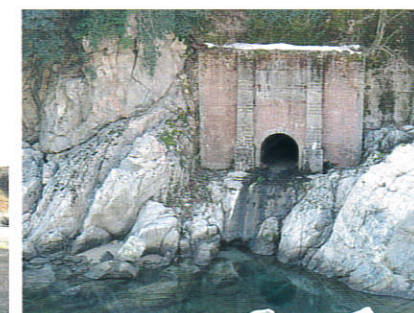
県民性を教育面で見てみよう。先見性、進取の気性、堪え忍ぶ力、諦めない心を土台に人材育成を進め、富山県の近代化を支えてきた。それは、人づくりのための県民の惜しみない支援という形で現れ、民間の力で設置された教育機関が多々ある。

日本三大寺子屋とされる^{こにしありよし}小西屋は明治32年まで130年も続き、^{こにしありよし}小西有義らにより運営された。富山県中学校は県民の幅広い厚志と敷地提供で明治18年にいち早く開校した。富山大学薬学部的前身である共立富山薬学校は、明治27年、配置薬業者らの出資により設立された。近代農業を支える人材を多く輩出した

富山県簡易農学校は^{しまいゆお}島嶽の遺言と建設資金の寄附で同27年に開校した。大正5年には^{やすだ ぜんじろう}安田善次郎の寄附を基に富山市立富山工業学校が開校した。子ども達に学びの機会を与えようと馬場はるが巨額の寄附をして同13年に富山県立富山高等学校(旧制)が開校し、八尾町立八尾女子技芸学校も同じ理由で^{いとう}井登つるの寄附により同11年に開校した。また富山県の障害者教育の嚆矢となった私立富山訓盲院は明治40年に篤志家の^{なみきぶん えもん}並本文右衛門が開校した。働く青年に学びの機会をと夜間中学(のちの定時制教育)として昭和4年に私立富山県教育会が私立富山中等夜学校を設立した。戦後では、昭和37年に鉄鋼王^{おおたによねたろう}大谷米太郎・^{たけじろう}竹次郎兄弟の尽力で当時最先端の学科をもつ県立大谷技術短期大学が開校した。このように多くの学校が県民の力により開校した。富山県の人づくりを支えたのも先見性と進取の気性が高い県民の力であったと見ることができる。これからも県民性が存分に発揮されてこそ富山県がしっかり築かれていくと思う。



初の水力発電所 大久保発電所
(左後ろは大久保用水からの水圧鉄管)



今も残る旧庵谷発電所の遺構
(神通川寺津橋西詰め)



稲塚権次郎の紹介板・中央奥は生家跡
(南砺市西明〈旧城端町〉)



明治36年建設の富山県立農学校本館
(「巖浄閣」〈国指定重要文化財〉)



旧制富山県立富山高等学校の校門の遺構
(富山市蓮町・馬場記念公園)



八尾女子技芸学校の校舎
(『七十年のあゆみ』八尾高等学校)